

## ▼グラン注射液 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 フィルグラスチム (U) filgrastim 【分類】 遺伝子組換えヒト G-CSF 製剤

【単位】 ▼75  $\mu\text{g}$ ・▼150  $\mu\text{g}$ ・▼300  $\mu\text{g}/\text{A}$

【常用量】 50～400  $\mu\text{g}/\text{m}^2$  を 1 日 1 または 1 日 2 回に分割投与 [静注用量は皮下注用量の 2 倍]

【用法】 点滴静注または皮下注 [通常は皮下注を選択]

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし。最も優れた投与方法は有効治療濃度を長時間保つ方法 (11) であるため皮下注の方が有効性は高い。【その他の報告】 50  $\mu\text{g}/\text{m}^2$  の 2 週間連続投与で  $t_{1/2}$  は正常腎機能者の約 2 倍に延長するが G-CSF の蓄積は認められず安全かつ有効に使用できた (Artif Organs 19: 1251-1257, 1995)

【保存期腎不全患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 G-CSF 製剤で直接好中球前駆細胞に作用し、その分化・増殖を促進させるとともに、成熟好中球の骨髄からの放出の促進および成熟好中級の機能 (遊走・粘着・貪食・殺菌・活性・酵素等) を亢進する。

【主な副作用・毒性】 ショック、間質性肺炎、芽球の増加、呼吸窮迫症候群、骨痛、発熱、皮膚発赤など

【モニターすべき項目】 心機能、血小板数、肝機能、腎機能 (U)

【吸収】 動物実験では経口投与で吸収されるという報告あり (11)

【F】 54% [sc] (1) 皮下注後 5 分後に血清中に検出される (11)

【tmax】 2～8hr[sc] (U) 皮下注後 5 分に血中に認められる (U) 3hr [sc] (1)

【代謝】 ほとんどが腎、骨髄、肝で代謝され分解され、元の構成アミノ酸になる (11)

【排泄】 尿中未変化体濃度は検出限界以下であるが分解されて生成されたアミノ酸は再利用され、最終的には 97% が尿中から、4% が糞便中に排泄される (11)

【 $t_{1/2}$ ] 点滴静注 1.4hr, 皮下注 2.15hr (1) 3.5hr (U) 【透析患者の  $t_{1/2}$ ] 2.47hr (点滴静注) 透析患者では 2 倍に延長 (Artif Organs 19: 1251-1257,1995)

【蛋白結合率】 高い (11)

【分布】 動物実験では腎臓、骨髄、血漿に高濃度で分布し、脳、胸腺、骨髄、筋肉中には低濃度で分布する (11)

【MW】 18799

【透析性】 血液透析は薬物動態に影響を与えない (Akizawa T, et al: Artificial Organs 19: 1251,1995)

【TDM のポイント】 24 時間後の好中球数はその時の血漿濃度に依存して増加し、ピーク濃度とは依存しない (11) TDM の対象にはならない 【OW 係数】 非常に低い (11)

【効果発現時間】 静注後 5 分で循環血中の好中球の減少が起こり、投与 4 時間後に好中球が上昇し始める。初期の好中球数のピークは 24 時間後に起こる (U) 【最大効果発現時間】 化学療法メニュー、病態、治療歴、本剤の投与量によって異なる (U)

【更新日】 20180711

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。